

SIREN2

part23-599,600,606,612,627,681、 part24-13,267,274,344、 part25-122,243、 part26-60,472,474、 part27-220
(途中まで)

part38-441,443,446 ~ 452,460,461,463 ~ 466 (上記の続き)

599 : [SIREN2](#) : 2006/07/26(水)02:20:33ID:LEwIXp4X
スマン、ageちまった

シナリオ分岐する要素あるから、後につながる分だけ書きます。

父と、姉と慕う少女の3人で夜見島の蒼之久の集落に住む幼い少年、三上脩はある夜階下からのもの音に気づき、目を覚ました。

「お父さん・・・？」そういいながら階段を降りた先で見たものは、惨殺された父の死体だった。

必死に事切れた父を起こそうとするが、突如玄関に現れた、「犬を連れた男」に驚き、奥の間へと逃げ込むのだった。

窓から家の外へと逃げた脩は、両手を血に染めた、姉と慕う少女「加奈江」と一緒に、なぜか加奈江を狙い、襲い掛かってくる漁師たちに見つからないように集落から逃走するのだった。

オカルト雑誌「アトランティス」の若手編集者の一樹守は29年前に島民が謎の消失を遂げ、

その後も近海で謎の消失事件の相次ぐ島、夜見島の取材を行おうとした。

夜見島へ行く手段が見当たらず、一時は途方にくれたが、その場に居合わせた盲目の作家「三上脩」

の計らいにより、彼がチャーターした漁船「翔星丸」に同乗することができた。

また、出港直前に駆け込んできたチンピラ風の男と、派手な格好の女を乗せ、

船は夜見島へと出港したのだった。

しばらくして突然船が大きく揺れだし、一樹が外に出てみると、海は赤く染まり、大きくうねり出していた。

船に必死にしがみつくと船員の女性を助けようとするが、女性は流されてしまい、

大きな赤い津波によって船は転覆し、一同は海に投げ出されたのだった。

600 : [SIREN2](#) : 2006/07/26(水)02:49:12ID:LEwIXp4X

三上の父、三上隆平が殺害される少し前、網元である太田常雄の家に漁師たちが集まっていた。

彼らにとて余所者で、民俗学？者の三上は聖域を荒らす邪魔者であり、また彼が海岸で保護した少女、加奈江は

彼らが守る村の言い伝えにある「海から来た穢れ」でしかなかった。

太田常雄の娘、ともえが加奈江が黒い影のようものを海へ帰しているのを見たとう証言もあり、

加奈江討伐の決起ために集まったのだった。

太田以下、全ての漁師が緊張した面持ちだったが、反対するものは1人もいなかった。

海に投げ出された一樹は廃墟の港へ流れ着いていた。探索を始めようとした瞬間、彼の視界の端を何かが横切った。一樹はそのまま朽ち果てた港湾施設を探索するが、そのとき、人の死体を思しきものが動き出すのを見るのだった。

探索の果て、彼は小屋の中で気を失っていた美しい少女「岸田百合」と出会う。

「助けて・・・！あいつらが私のこと探してる！」

一樹は訳が理解できなかったが、

その場に先ほどの動く死体「屍人」が現れ、百合に襲い掛かろうとした。

屍人を撃退した一樹は、百合を伴って廃墟の港を脱出するのだった。

ちょうどその上空を、一機のヘリが爆音を上げながら、急激に高度を落としていった。夜見島近海を飛行していた陸上自衛隊の輸送ヘリが自機の場所を見失った上、操縦不能に陥ったのだった。

夜見島に不時着したヘリは、奇跡的に助かった三沢岳三等陸佐、永井頼人陸士長、瀕死の重傷を負った沖田宏二等陸曹を残し、全員死亡。

瀕死の沖田を前に泣きじゃくる永井と対照的に淡々と指揮を宣言する三沢。観覧車らしきものを視認した三沢は永井とともに沖田を担ぎ上げ、移動を開始するのだった。

606 : [SIREN2](#) : 2006/07/26(水)11:39:11ID:bW9UhuMw

廃墟の遊園地にたどり着き、管理小屋の電話から外部への連絡を試みる三沢。不時着の衝撃で無線機は壊れてしまっていた。だが電話が繋がる様子はない。受話器を置き、銃を手にも小屋の外へ出ると、永井が沖田の死体を前にして泣きじゃくっていた。

「オイ、そいつもう死んでぞ」冷淡に声をかける三沢。永井を引き起こし、立たせようとしたが、

永井は再び座り込んでしまう。

その時死んでいたはずの沖田が突然動き出し、永井に向けて発砲したのだった。

永井に応戦を命じる三沢。永井は三沢から銃を受け取り、変わり果てた上官を打ち倒すのだった。

遊園地跡から脱出を試みる二人だったが、屍人として蘇ったかつての仲間が行く手を塞ぐ。その途中、永井は奇妙なものを見つける。精神を高揚させる薬。三沢は自分のだと言って永井から取り上げてしまったが、

それはおおよそ三沢には縁遠いはずのもだった。もうひとつは紛失した装備を回収したとき、信管を含む発火装置は回収できたのだが、

C4爆弾がなくなっていたのだった。

遊園正門は厳重に封鎖されていたため、二人は遊園裏門からがけを乗り越え、遊園地を後にするのだった。

山道に行く一樹と百合。座るのに具合のよさそうな岩を見つけ二人は休憩を取った。

百合が島へ来た目的を話し出す。それはこの島に閉じ込められた母を助けるためだと言う。驚きを隠せない一樹だったが、百合は続ける「母さんは鳩を飛ばし続けた、でも戻ってこなかった」

意味が理解出来ない一樹だったが「ずっと待ってた、あなたが来るのを……。あなたは私を助けてくれる……？」

懇願する百合に一樹は困惑しながらも、同行を決意するのだった。

夜見島出身の駐在警官、藤田茂は夜見島の金鉱跡を巡回していた。地元の漁師たちから無人のはずの島に女がいるのを見た、との通報があったためだった。

藤田は生来、余計な事によく首を突っ込む性質で、その事で、家族からは疎まれていた。

決定的だったのは数年前、情に絆されて窃盗犯を取り逃がし、警部補から現在の地位に降格されたときのこと。

妻は過労で倒れ、大学進学を諦めざるを得なくなった娘、朝子からは事実上の絶縁を手紙で通告される事になったのだった。

無線で連絡を取ろうとした藤田だったが、どうした事が無線が通じない。

その時、彼の視界を黒い塊が横切るのだった。

黒い塊は屍霊と呼ばれる凝り固まった闇に人面が浮かび上がったものだった。

屍霊の襲撃を懐中電灯と警棒で振り払い、高台の小屋から藤田は奇妙なものを見つける。

深い森の中に大きな客船が座礁しているのだった。

「はぁ～やんなっちゃうなあ。すまんなあ、朝子。」

そうつぶやくと彼は客船へと急行するのだった。

612 : [SIREN2](#) : 2006/07/26(水)13:29:57ID:uOb6qP3u

再び移動を開始した一樹たちは、遊園地から脱出してきた三沢たちに出会う。

救助に来たのかと思い、駆け寄る一樹だったが、三沢は警戒を解かない。

ライトの光を怖れる百合を不審に思った三沢だったが、激昂した一樹が間に割ってはいる。そのとき永井は信じられないものを目撃する。「三佐、あれ・・・」
一同はこちらに押し寄せる巨大な赤い津波を目撃するのだった。

その少し前、チンピラ風の男、阿部倉司とともに漁船に乗り込んだ女、喜代田章子は不思議なものを見ていた。
彼女は生まれつき場所や物に付いた過去の記憶を見ることが出来、その力を生かし占いで生計を立てていた。

(参照 <http://www.yumemi-salon.com/j/index.html>)

彼女は夜見島の漁港の、とても古い記憶の中に殺害された彼女の友人「多川柳子」の顔を見たのだった。

「なあなあそれ靈感てヤツ？実はさ、俺も昔みたことがあってよ～」

くだらない話で章子の思考をジャマする阿部は、その柳子の同居人であり、恋人であり、そして殺害の容疑者である。

柳子が殺害されたことを自宅のテレビで知った章子の下に突然ナイフを持った阿部が押しかけてきたのだ。

「俺は柳子を殺しちゃいねえ！あの前にあいつにあっているんだ！」

そう喚く阿部。

彼は自宅で柳子らしき死体（顔が判別不可能なほどに殴打されていた）の発見する前に、階段で彼女とすれ違い、挨拶までしたという。

だが普段から粗暴で、柳子との争いが絶えなかった阿部は真っ先に容疑者として指名手配されてしまう。

パニックに陥った彼は、柳子の友人で、彼が胡散臭がっていた章子のもとに駆け込んだのだった。

彼の過去を「視た」らしい章子は阿部を信じ、彼が目撃した「もう1人の柳子」を探し出すのだった。

そんなこんなで夜見島へきた二人だったが、船は転覆、二人は無人の島に置いてけぼりである。

にもかかわらず阿部は足元に落ちていた胡散臭い金のアクセサリを拾って「これ純金じゃね？」

などくだらない言動を取り続けるのだった。

軽薄な阿部にウンザリしていた章子は驚くべきものを目にする。

それは二人に向かって押し寄せる巨大な赤い津波だった。

脩を貨物用ロープウェイで先に脱出させた加奈江は夜見島港へと急ぐ、途中ともえが彼女の行く手を阻んだが、

ともえを振り切り脩の元へ急ぐ加奈江。「あんたは逃げられない！」

ともえの叫びが背後から彼女に投げつけられるのだった。

網元、太田常雄以下、多数の漁師が港湾施設跡地で二人を探していたが、加奈江は彼らの視界を盗み見する特殊な力を駆使し、

彼らを欺き、無事脩と再会する。灯台へと向かう二人を漁師たちが取り囲み、窮地に立たされる2人。

そのとき唐突に足場が崩れ、二人は崖下の海へ落ちていく。

「終わった・・・」そうつぶやく太田たち。だがその時、サイレンに似た不気味な音が高らかと鳴り響き、島全体が鳴動し始めたのだった。

ともえは赤く染まった海から、巨大な赤い津波が押し寄せてくるのを目撃する。

逃げることも出来ず、漁師たちは津波に飲み込まれていくのだった・・・。

627 : [SIREN2](#) : 2006/07/26(水)22:54:54ID:z+KF1bYz

なんだか長くなってしまった。無駄遣いスマヌ手元に攻略本しかないんでうる覚え。

まるで誰かの意識が自分の中に流れ込んでくるような不快感に苛まれながら、一樹は目を覚ました。傍に立つ百合に着物姿の女がつかみかかる。

「なんで！なんであんたが生きてんのよ！」女を振りほどき、逃げる一樹と百合。

金鉾跡にたどり着いたとき、一樹は再び不快感に襲われる。

「じっとして。意識を集中して・・・。」一樹に声をかける百合。すると一樹の視界に、百合の視界と思しき視界が入り込むのだった。

一樹は信じられなかったが、百合は特に気にした様子はない。
この不可解な力を駆使し、屍人の蠢く金鉱跡を突破する二人であった。

県立亀石野中学2年、矢倉市子は突然目を覚ました。
テニス部の試合、団体戦準優勝、その帰りのフェリーの中・・・のはずだった。
市子はたった一人、薄暗い船倉で倒れていたのだ。
「ノリコー！中島くーん！？みんなどこー！？」
だが返事はない。その時唐突に頭に流れ込む誰かの視界。
「なに・・・？これ？・・・ヤダ・・・わかんない！！」パニックに陥りそうになる市子だったが、
船内を徘徊する屍人をやり過ごし、何とか艦橋へとたどり着く。突然船内電話が鳴り響く。
受話器を取ると中年男性の声が受話器のから聞こえてくる。矢継ぎ早に市子に質問する男。
しかし市子が答えようとしたとたん、ノイズが混じり、電話は切れてしまう。またしてもパニックになりそうな市子だったが、
勇気を振り絞り、船底の電源室へと向かう。「誰かいませんかー！？」
そう叫ぶ市子に扉の向こうから男が答える。
「そこにいるのか！？待ってる！お巡りさんすぐにここを開けるから！」
針金を使い、鍵をこじ開ける藤田。
かくして二人は無事合流し、船の外へ脱出するのだった。

藤田の乗ってきた船を目指す藤田と市子。旧軍の砲台跡地に差し掛かったとき、1人の男が二人の前に現れる。
「藤田んとこの、馬鹿息子か・・・」
息も絶え絶えに語るのは、網元、太田常雄である。
「親父さん！あんた10年間なにしてたんだ！？」10年前に全島民とともに消えたはずの太田を前にして動揺する藤田。
だが二人は再会を喜ぶこともなく、太田は絶命してしまう。絶命した太田を取り囲む屍霊。
ほどなくして太田は屍人として復活し、
二人に襲い掛かるのだった。
太田を退け、砲台跡の地下に入る二人、だがそこで太田に追い詰められてしまう。太田が市子に襲い掛かろうとしたまさにその時、
市子は太田に向かって晒ったのだった。その笑みをみて恐れおののき、逃走する太田。
不思議に感じた市子だったが、藤田は気にも留めず、二人はもうひとつの砲台跡を経由し船を目指すのだった。

681 : [SIREN2](#) : 2006/07/28(金)01:45:29ID:/Zgf4oI/

もう少し端折って短くしたいけど、下手に端折ると話が分からなくなってしまう・・・。

金鉱跡を抜け、再び山道へと入った一樹と百合。一樹は自らの体験した数々の不可解な出来事に困惑していた。
「おかしい。いくらなんでも非科学的すぎる。」そうつぶやく一樹。
百合に意見を求めても、返ってくるのは母を助けるという自分のことばかり。
混乱と疲労が一樹を苛立たせ、きつい言葉を発してしまう。
「その君の母さんとかいう人、本当にいるの？」その言葉に過剰な拒否反応を示す百合。
「私のこと信じてないのね！」そう言い放ち、駆け出す百合。
一樹は取り繕うこともできず、その場に立ち尽くすのだった。

山道を独り歩く百合。足元にまわり着く屍霊を踏み潰し、一瞥をくれたその時、
森の中に座礁した船から何かを感じ取りのだった。
「-誰？」そうつぶやくと百合は客船へと向かうのだった。

赤い津波に巻き込まれ(もっとも彼は見えていなかったが)、海へと投げ出された盲目の作家、三上脩。
彼は、彼の失われた記憶の断片に残るある少女を追って、夜見島を目指していたのだった。
舗装路の上で彼の愛犬ツカサに起こされる三上。だが彼は彼の視界に驚いた。
失ったはずの彼の視野には、ツカサのものと思しき視界が広がっていたのだ。
「ツカサ・・・これはお前なのか？」そういいながらフラフラと目の前の石段を登り、目

の前の家の引き戸を開ける三上。
そこには29年前、あの日あの時の自分が事切れた父を抱き起こそうとしていた。
三上に驚き逃げる脩。背後から太田常雄が現れ、三上を不審に思うが、
突然、死んだはずの三上隆平が跳ねるように飛び起き、驚き逃げる太田を追いかけるのだっ
た。
三上は状況が信じられず、事実を確かめるために彼が埋めた、「お姉ちゃんとの思い出」を
掘り出しに行く。
彼の記憶の通り、彼が描いたお姉ちゃんの絵はそこに埋まっていた。今時分は29年前のあ
の島にいる。
そう確信した三上をツカサが突き飛ばす。その直後、近くのプレハブが倒壊し、ツカサは生
き埋めになってしまう。
更に三上の背後から屍人と化した漁師が襲い掛かる。弱い視界を頼りに逃げる三上。
だが彼は足を踏み外し、崖下へと転落するのだった。

金鉦社宅前で意識を取り戻した章子は奇妙な感覚に違和感を抱く。
いつもの過去の視界ではなく、今現在の誰かの視界を見ているのだ。
「何、これ？いつもと違う・・・。」そうつぶやく章子。
彼女が見たのはフェンスに生っていたアケビをもぎ取って食べる阿部を見ている誰かの視
界だった。
放置されていた軽トラに乗り、社宅跡を突破する章子。
一方阿部は犬の鳴き声に導かれるように、社宅跡を後にしていたのだった。

夜見島、瀬礼洲に打ち上げられた客船ブライトウィン号。
三沢と永井は船内を探索していた。永井が不安な心境を告白する。
-これは夢じゃないのか、自分の頭はおかしくなっているんじゃないのか-
三沢は頭に弾丸ぶち込んでみるか？と永井に聞く。
「もし夢なら暖かい布団で目が覚める。もし夢じゃなかったらー、それで、終わり-」
突然永井の頭に銃口を向け、ふざける三沢、その顔には子供のような狂気じみた笑い顔が浮
かんでいる。
驚く永井だったが、背後の物音に気づきライトを向ける。
そこのは先ほどの若い女がいた。光を嫌がり、逃げる百合。
追いかけてようとする永井だったが、三沢は気にも留めず、そのまま別の船室へと向かう。
「三佐？三沢さん！・・・なんなんだよあいつ調子乗ってんじゃねーよ」
永井は1人で百合を追うのだった。無事百合を保護した永井だったが、
百合を執拗に狙う、着物を着た女屍人によってタラップを落とされ、船から脱出できな
く
なってしまう。
永井は船倉にできた亀裂から百合を逃がし、自らも、救難艇で客船から脱出するのだった。

先に脱出した百合に追いついた永井。百合は長いに抱きつき、問いかけるのだった。
「あなたは私を信じてくれる？助けてくれる？」百合の神秘的な美しさに惹かれる永井。
その時、突然背後から三沢の銃口が百合に向けられる。銃口を跳ね除け、百合を逃す永井。
「何なんだよあんた！あんた前からおかしいと思ってたよ！！なんであんたなんだ・・・」
「なんであんたじゃなくて沖田さんが・・・！ちくしょう！！もうやってられっか
よ！！」
募らせた思いを吐き出す永井。吐露された怒りは上官と部下の関係を破綻させるのだった。

13 : [SIREN2](#) : 2006/07/30(日)10:09:09ID:i0kqLljQ

最後の一粒になった錠剤を飲み込む三沢。
「なーがいくーん、いっしょにあそびましょー！」またしても彼らしからぬ、ふざけた調子
を取る三沢。
彼の精神は極限まで蝕まれつつあった。
2年前、大地震に襲われ、壊滅した羽生蛇村。彼は災害救助の任務を遂行していた。
ただ1人、無傷で助かった少女を抱きかかえ、ヘリに吊り上げられる三沢。
その時彼は見たのだ。眼下に広がる泥土の中から彼と少女に掴みかかろうとする無数の手
を。
この地にかけられた呪いの断片、安らかに眠ることすら禁じられたものたちの呪詛と怨嗟

「やめろ・・・やめろーっ！！」ただ叫ぶことしかできない三沢。
「三沢一尉？三沢一尉！？」彼を呼ぶへりからの声で我に返る三沢。
彼の眼下にはただただ先ほどと同じ、泥土に埋もれた村が映っていた。
この出来事以来彼の精神は病み、鬱の状態になることが多くなった。
それは、三佐昇進、冬季東アジア大会での輝かしい功績をもってしても打ち消せず、
薬の使用により何とか押さえ込んでいる状態だった。
だがこの島に来て以来、立て続けに起きている怪異は彼の神経を高ぶらせ、鋭敏にし、
加速度的に精神状態を悪化させていた。
「どうしてそんなに嫌うかな・・・どこだ、永井。」そうつぶやき歩き出す三沢。
だが彼は廃墟の金鉱社宅の一室に妖しい光がともるのを目撃する。
その部屋へと向かおうとする三沢。だが彼の行く手を沖田以下、彼のかつての部下が阻む。
彼の持てる戦闘技術を結集し、屍人たちを退け、三沢はついに部屋へたどり着く。
そこには、あの日助けたはずの少女が、座って泣いていた。少女の肩に手をかけようとする
三沢。
その時少女が突然振り向き飛び掛ってきた。あの顔は屍人そのものだった。
反射的に飛びのき、銃を乱射する三沢。だがそこには少女の気配すらなかったのだった。

崖から転落したあと、阿部によって助けられた三上。今は砲台跡のトンネルにいた。
「アレッ？あんた三上脩じゃねえ？」相変わらず軽薄な阿部を無視して話を進める三上。
「この島のどこかに、記憶を引き出す鍵があるはず・・・阿部さん、あなたの目をかしてく
れないか？」
阿部の視界を借り、砲台跡を探索する阿部と三上。
地下の封じられた弾薬庫をの入り口を破壊し、中に入る二人。だが特に妖しいものはない。
「なんだよなにもねーじゃねーか」ぼやく阿部。
しかし三上がレンガ造りの壁に触れたとたん、壁が崩れ、土の中に埋もれた人魚のような生
き物の化石を発見するのだった。
おおきなかみさま しんだ おねえちゃんのおかあさん うまれた いっぱいうまれた
子供のころ、加奈江が話してくれたことを思い出す三上。
二人は急ぎ、砲台跡を脱出するのだった。

遊園地跡へとたどり着いた二人、三上は闇の中から自分を呼ぶような声を聞いた気がした。
幼いころの記憶がよみがえる、七つの門、七つの鍵。
加奈江の残した言葉と歌、そして父、隆平が捜し求めた夜見島の謎、
それさえ解けば記憶が完全に戻るという確信が彼にはあった。
電動パンダにまたがる阿部に三上は再び協力を求める。
物事に頓着しない阿部は、彼の真意を知ることなく、彼に協力するのだった。

267 : [SIREN2](#) : 2006/08/16(水)22:08:40ID:tyC+jfBT0

百合をさがして夜見島遊園へ独りたどり着いた一樹。
百合は座っていた。声をかける一樹に百合はガラス製の鳩を見せた。
「見て」百合の手から滑り落ち、粉々に砕けるガラスの鳩。
「早くしないと戻ってしまう、混沌の闇の中に・・・」そうつぶやく百合。
一樹は百合の言葉を理解できなかったが驚くべきものを見た。
それは先ほど砕けたはずのガラスの鳩だった。まるで何事もなかったかのようにそれはそ
こにあった。
百合の歌う失われたはずの「巫秘抄歌」と幻視によって次々と現れる碑の封印を解く一
樹。
最後の巫女の碑の封印を解いた一樹。とたんに強い眩暈に襲われる。
「見て・・・」頭を押さえ、苦しむ一樹の背後を指差す百合。
錆付いた観覧車があったはずのそこには巨大な穴が現れていた。

遊園地の地下に広がる空間。異様な雰囲気漂うなか、一樹は百合の後を追って鉄製の階段
を下りていく。
その先にあったのは、地底に広がる赤い海。百合はゆっくりと振り返り、上着を脱ぎ捨てて
いく。
「本当の私を見て・・・」そう呟き、はだけた胸元には、もうひとつの顔が浮かび上がって
いた。
百合もまた、人ならざる者だったのだ。立ち尽くす一樹。今度は胸元の顔が話しかける。

木船は他者の肉体を乗っ取る自らの力を駆使し、武器を手に入れ、七つの碑を叩き壊し、「冥府の門」を閉じようとするのだった。しかし門は閉じられることなく、門の中から黒衣をまとった閻霊たちがあふれ出てくるのだった。逃げようとする二人を、変わり果てた藤田と屍人自衛官が包囲する。しかしまたしても閻霊たちによって屍人は喰われ、二人は窮地を脱するのだった。

遊園地の出口へと向かった二人は三度、閻霊に襲われた。すでに出せる力もなく、絶体絶命の危機に陥る二人。しかし空から降り注いできた赤い光によって彼らを取り囲んでいた閻霊は消滅し、二人は三度の危機をまたしても運命に救われたのだった。

集落まで逃げた二人。しばしの休息の後、人との接触を怖れる木船はその場から立ち去ろうとする。木船の手をつかみ、二人で行動することを提案する一樹。しかし木船の、自分は人の心を読むことが出来る、という言葉に驚き、一樹は手を離してしまう。「そんな・・・化物を見るような目で見ないでよ」木船はそういい、力なく微笑み立ち去っていった。-やはり自分は化物なのか、そのような思いに捕らわれる木船であった。

取り残された一樹は、何故手を離してしまったのか、と後悔していた。彼の脳裏につらい過去の記憶がよみがえる・・・。

344 : [SIREN2](#) : 2006/08/25(金)05:20:53ID:o/3MmBwC0

怪異発生より8時間後の夜見島、潮降浜。その近くを矢倉市子は彷徨っていた。服には藤田の血がついている。「お母さん・・・家に・・・帰りたい・・・」そう呟く市子の脳裏に一瞬奇妙な記憶が甦る。誰かの手にぶら下がる自分。しかし、プレスレットが千切れて海へ落ちていく。記憶のなかの市子が海に落ちたと同時に、市子自身も足を踏み外し、崖下の道路へと転落した。-逃げなきゃ、そう思い、潮降浜の前を走りにける市子。その前にアイロンで武装した女屍人が立ち塞がる。武器を持たない市子では対抗することができない。逃げようとしたその時、背後から軽トラックのエンジン音が鳴り響いた。驚いて道脇の草むらに飛び込む市子。そのすぐ横を軽トラックが猛スピードで通過した。市子が草むらから這い出してみても、女屍人が少し離れたところに転がっていた。撥ねられたらしい。市子はアイロンを手にするとうろたえた小中学校跡へと向かったのだった。大道具倉庫で釘箱を入手した市子はそれを校舎裏の道に撒いた。しつこく追跡してくるトラックをそれでパンクさせようというのだ。市子の目論み道理、タイヤが破裂し、制御を失い、封鎖された校舎裏門を突き抜けるトラック。その時校舎裏門から大量の閻霊が侵入してきた。屍人たちは市子に目もくれず、閻霊を攻撃し始める。そのまま校舎裏門を抜ける市子だったが軽トラックから屍人が降りてきた。かつての沖田宏である。沖田は市子に気づくまもなく閻霊に囲まれ、そして喰われた。市子は泣き叫びながらその脇を通り抜けるが、閻霊に囲まれてしまう。その時、市子の頭上に赤い光が降り注ぎ、包囲していた閻霊は蒸発するのだった。

その1時間ほど前。崩谷、夜見島金鉱(株)社宅跡。そこに女の悲鳴が響き渡った。だが生きているもののそれではない。海より来る穢れに操られしもの、屍人の叫び声である。

異界、夜見島において人の上に君臨し、蹂躞する存在。そのはずの彼らが恐怖し、逃げ惑い、仲間に助けを求めていた。

突然歌いだし、ポケットから拾った金のアクセサリを章子に手渡す阿部。

「今日誕生日だったろ？免許書で見たんだよ。」

戸惑いながらも表情を緩める章子。俯いて寝息を立てだした阿部に寄り添い、しばしの平穩を味わうのだった。

243 : [SIREN2](#) : 2006/09/18(月)02:05:33ID://aGHVnB0

砲台跡で大の字になって寝転び、三沢は空を見上げていた。空にはもうひとつの夜見島があった。

「・・・あっち側は遠いなあ・・・」そう呟く三沢。

その時、突然少女の叫び声が聞こえてきた。

すぐ近くで市子が闇人に襲われていたのだ。その叫び声を聞き、薄ら笑いを浮かべて武器を構える三沢。

市子は三沢に助けられ、無事に砲台跡から脱出する。そして三沢も市子の後を追うのだった・・・。

蒼ノ久集落に来た永井は少女の嗚咽と男の声を聞いた。

「あの女より生臭い。お前は何なんだ」そういい市子に銃を向ける三沢。

「わかんない・・・わかんない・・・！！」そういい泣き叫ぶ市子。

「やめろーッ！！」そう叫び咄嗟に銃を構える永井。しかしその弾みで銃が暴発し、三沢を打ち抜いてしまう。

よろよろと永井の方に向き直る三沢。

「・・・やるじゃない」そして永井に抱きかかり、最期の言葉を残すのだった。

「俺は先に目覚めちゃうけど・・・悪いな」

最後まで三沢の真意を理解できず、目の前の事実には呆然とする永井。

永井は市子を連れ、その場から逃げるのだった。

60 : [SIREN2](#) : 2006/10/04(水)21:22:38ID:VJosXtZY0

三沢を誤って射殺し、市子をつれてその場から逃げ出した永井は夜見島金鉾社宅へとたどり着いた。

虚ろな市子を励ます永井。その背後の暗闇に、巨大な顔がぼんやりと浮かび上がる。

銃を構える間もなくはじき飛ばされる永井。起き上がると既に市子の姿も無い。

さらわれた市子を奪還すべく走り出す永井。

社宅の一室に市子はいた。しかし永井が声をかけるが虚ろな笑い声だけを返す市子。

市子はフラフラと立ち上がり、突如機関拳銃を永井に向けて発砲した。

「あの時死んだのは・・・私。・・・早く還りたい・・・おかあさん。」

意味不明な言葉を呟き、闇人を殲滅しながら社宅をさまよう市子。

永井は市子が落としたと思われる壊れたプレスレットを市子の前に示し、正気に戻そうとするが

市子は永井の手を振り解き、逃げてしまうのだった。

冥府の門が開き、母胎が復活したその時、市子に急激な変化が訪れた。

薄笑いを浮かべる市子。藤田の胸に突き立つナイフ。うわごとのように娘への懺悔を呟き動かなくなる藤田。

我に返った市子の嗚咽と叫びが闇に木霊するのだった。

市子は思い出す。一眼下に広がる、荒れ狂う漆黒の海。親友ノリコの腕にぶら下がり、今にも落ちそうな市子。

おそろいで買ったノリコのプレスレットに指がかかり、プレスレットが大きくゆがむ。

死にたくない-そう思い指に力をこめた刹那、市子は荒れ狂う異界の海へと落ちた。

赤く染まった海中に漂う市子。手にはプレスレットが握りしめられている。

水中に響くくぐもったサイレンのような音が、徐々に市子に近付いていく。

ドアを開け船室に足を踏み入れる一樹。薄暗い船内に外光が差し込み、闇霊が奇怪な叫び声を上げ消滅する。

殲滅すべき敵を認識した一樹の目に憎悪が宿る。

「光が・・・苦手なんだな・・・。化物め、化物め、化物め！」

憎むべき敵と、その弱点を知った一樹は船内の電源を復活させ、闇霊を一掃する。

人の姿をした化物も、更に醜悪な姿になった闇人、ともえをも倒した一樹。

疲れ果て、忍び寄る闇霊に気が付かない一樹を永井が助ける。
悲観的言動の一樹に対して、ある種の居直りを見せる永井は、絶望的状况での悪あがきを促す。

再び夜が訪れる。
待っていても助からない。
二人は怪異とその元凶に挑む。

472 : [SIREN2](#) : 2006/11/28(火)20:24:07ID:0Kyq4nbO0

夜見島、瓜生ヶ森。
背後から郁子の肩を掴もうとする阿部。反射的に振り払う郁子。
「なァアンタ、派手なカッコした女見なかった？・・・あれ？アンタどこかで・・・」
阿部は章子の行方を尋ねるうちに、何故か奇妙な懐かしさを感じる、郁子は何も答えず走り去る。

章子は蒼ノ久集落にいた。
章子の意識に自分のものではない過去の映像が断片的に甦る。目を開く章子。
「脩.....あの子はどこ？」覚束ない足取りでさまよい始める章子。
自分のものでない記憶に導かれた章子は三上家へたどり着く。
しかしその三上家から異形の存在となった三上脩の父、隆平が現れる。
「まだ起きていたのか。早く寝なさい。」
子供をあやすような口調で襲い掛かってくる修平。
章子は霊体となった脩に導かれ、夜見島に伝わる、異形の存在を浄化するという滅爻樹を手に入れる。
修平の隙を突き、その体に滅爻樹を突き立てる章子。
異形の断末魔の叫びとともに、修平は浄化された。
そして章子は真実を知ることになる。
血にまみれさび付いた包丁。
本当の自分。

あの日の記憶

隆平の腹部に刃物を突き刺している自分。
隆平は何が起きているのかわからない、という顔だ。
玄関の戸が乱暴に開けられる。
雨合羽をきた漁師の男たち。
奥の部屋へ逃げ込む。
そこの鏡に映るのは
章子の顔。

振り上げた包丁を鏡に叩きつける。
章子の顔はひび割れ、砕け散る。
「ーそう、私はー」
錆びた包丁を手に立ち上がる章子。
だがその顔は加奈江のものであった。

220 : [SIREN2](#) : 2006/12/24(日) 21:23:22 ID:k+hq9IPm0

四鳴山、離島線4号基鉄塔。
かつて島民から聖域として畏れられた地に聳え立つこの鉄の塔も、
島の他のものと同じく朽ち果て、自然の中に埋没していた。
そしてそれは島が異界と化した際に、さらにおぞましい姿になった。

朽ちたコンクリートの基部とその上に立つ鉄骨製の塔、そしてそれらにまとわりつき、飲み

込むように伸びる一本の巨木。
それは異形に対し、抗うことを決心した者たちさえも竦みあがらせた。

社宅、ブライト・ウィン号、それぞれで異形に対面した二人だったが、一樹と永井は奇怪な鉄塔がそびえ立つ異様な光景に気圧された。その鉄塔の先に、もうひとつの夜見島があるのを見た一樹がひとつの結論に達した。「ここは27年前の夜見島のコピーだったんだよ！！」「うわぁ・・・語り始めちゃったよこの人・・・。」「やつらはこの鉄塔を利用して現実の世界に浸出するつもりなんだ！」一樹は思いつめた表情で、塔へと独り歩き出し、諦めと居直りの態度の永井がその後を追う。

二手に分かれた一樹と永井だったが、鉄塔上部にて無事に落ち合うことができた。階下の永井を一樹が引き上げようとしたその瞬間、背後から再び異形が現れた。「他所者どもめ・・・わしの目の黒いうちは好きにはさせんぞ！！」それは変わり果てた網元、太田常雄だった。太田に突き落とされ、鉄塔から落下する永井。一樹は鉄塔内部へ逃げ込み、隙を突いて太田を押さえ込む。そして途中で偶然手に入れた太田常雄銘の滅爻樹を突き立てた。「あああああああッ！・・・穢れが・・・消える・・・」断末魔の叫びを残して、太田常雄は滅せられた。その様子を見ていた太田ともえは、驚き、怯え上階層へと逃げていくのだった。

441 : [ゲーム好き名無しさん](#) : 2008/05/06(火) 15:40:45 ID:apy4KcCF0
簡単でいいからサイレン2お願いします。
まとめの奴って最後までかかれてないよね？

443 : [ゲーム好き名無しさん](#) : 2008/05/06(火) 18:16:51 ID:ud1aa8n60
>>441
書かれてないからやってみるよ

446 : [SIREN2続き](#) : 2008/05/06(火) 21:52:52 ID:ud1aa8n60
初めてなんで変な文章でゴメンよ とりあえずwikiの続きから

夜見島離島線4号基鉄塔
感應視により闇人達が鉄塔を通じて現実世界に侵攻しようとしていることを知った郁子は、鉄塔のふもとにて頂上を見上げ、闇人たちの思惑を打破しようと決意する。そのとき不意に背後に気配を感じ振り向くと、視界の端に人影を捉え消えた。その人物のいたところには滅爻樹（藤田茂銘）が転がっていた。鉄塔を上る道中、クレーンの鍵、鉄塔に絡まるように生えていた大樹に突き刺さっていた闇那其（あんなき）なる巨大な石、乙式ともえがいじくっていた一樹のカメラを入手。感應視を駆使して闇霊や闇人がたむろする鉄塔をさらに上り、鉄塔中腹で徘徊していた闇人藤田を滅爻樹で浄化した。藤田は「そうか...あんたも...あの...」と謎の言葉を郁子に投げかけ浄化されていた。闇霊闇人との幾多の戦闘や闘争のはてに疲労困憊となった郁子はよろけ、さらにその足場は崩れてしまった。が、あわやの所でその手を一樹がしっかりとつなぎ止めた。数時間前には異能に躊躇し手放してしまった郁子の手だったが今度は離さないと一樹はこれまでの顛末を詫び、それに悪態で郁子は返した。笑みを浮かべる二人。そして二人で鉄塔の頂上を目指すことになった。

夜見島金鉱採掘所
昨日団地内に自生していた夜見アケビに当たり腹痛に苛まれながらトイレを探していた阿部。激しい絶望感に「くそすぎだろっ！このままじゃよう...」とへたれこんだその頭上に

銃弾が打ち込まれた。
徘徊の最中闇人化した三沢をかわし物置に入ると霊体化した三上と遭遇した。
持ち前の明るさでもって気さくに挨拶する阿部の目の前で三上は壁の中へ消えていった。
三上が消えたそこには犬笛があった。その犬笛を何の気無しに吹いてみるとツカサが現れた。
彼女も霊体化した三上に導かれて金鉱へと来たのだった。ツカサは阿部が砲台跡で落としたライターを返すと瓦礫の向こうへと再び走り去っていった。

447 : [ゲーム好き名無しさん](#) : 2008/05/06(火) 21:53:54 ID:ud1aa8n60

夜見島小学校

鉄塔から落とされ再び一人となった永井は闇人への徹底抗戦を決意。フェイスペイントを施し自己を鼓舞し『逆切れモード（永井談）』となり闇霊を殲滅していく。永井は軽トラックで小学校を根城に跋扈する闇人闇霊を轢き殺し、団地で手に入れたタイムカプセルの地図をもとにヒューズを手に入れた。さらに校舎に立てこもった闇霊を信号弾の閃光でいぶりだしそれも殲滅、残った闇人化した沖田をトラックに積んであったTNTで爆殺、体を完全に破壊されたことで沖田の復活は不可能になり、遂に引導を渡すことに成功する。そのころ学校に程近い浜、そのさらにさらに底の方から何か異形の生物が陸地に向かって急激な浮上を行っていた。

夜見島離島線 4号基鉄塔

鉄塔頂上を目指す一樹と郁子の前に完全に自我を失い模倣体（外見は完全なコピーで中身はさっきの異形の生物の意思というようなものを想像してくればok）として覚醒した市子が現れた。

母体への恨みと思慕を郁子へ語りかける市子。右手に日本刀左手に機関銃を携えた市子も鉄塔の頂上を目指している。

本能的に先に市子を頂上へ行かせてはいけないと悟った郁子と一樹はさらに急いで鉄塔頂上を目指す事になった。

ここで補足 何故みな鉄塔頂上を目指しているの

一樹：

キバヤシ理論。根拠無し。

郁子：

ブライトウィン号沈没の際に唯一生還した木船倫子（市子の親友で市子の片思いの相手の中島君の子供を宿している）の体内にいた双子に百合や章子、加奈江と同じ性質をもつ母胎地上侵攻作戦に向けて放たれた内偵者が同化した。

その結果郁子は生まれながらに異能を手に入れていたわけだが、異能を手に入れるとともに母胎の精神とのリンクも手に入れていた。

そのため鉄塔の頂上に母胎がたどり着いてしまうと現実世界も侵食されてしまうと気がついている。

母胎：

地上侵攻作戦。三上脩の肉体を手に入れたことで現実世界に侵攻する力を手に入れたため侵攻作戦が遂に実行されることとなった。鉄塔の頂上で現実世界とリンクしているためそこにたどり着けば現実世界への侵攻が現実のものとなる（らしい）。

市子：

そもそも母胎と屍霊は同一種であり光の届かなかった頃の地上で繁栄していたが、地上に光が降り注いだ際に光に耐性のなかった母胎と屍霊はそれぞれ別の場所に避難した。

母胎は異世界へ、屍霊は光の届かない深海へ。

屍霊は自身を捨てて異世界へ逃げた母胎が憎くてたまらない反面、母胎と再び一つになりたいという願望を抱いている。

そのため母胎の元へたどり着くべくブライトウィン号沈没の際に手に入れた市子の水死体をもとに自己の意思を反映するためのコピー、模倣体を異世界へ送り込んだ。最初は人間のときの記憶が再生されていた市子ではあったが

現在は完全に模倣体として覚醒しており母胎と合流するために鉄塔の頂上を目指している。

また市子は母胎との合流が至上目標であるためそれを妨げるものは人間であろうと闇霊であろうと駆逐していくのであった。

一方母胎側としては長く現実世界にいてことで形質が劣化してしまった屍霊にはさしたる興味もなく地上侵攻作戦を遂行することが至上目標であるため邪魔する屍霊は敵として

認識されている。

鉄塔頂上に向かう道中乙式ともえを滅爻樹で浄化し、郁子が入手したクレーンの鍵でクレーンを動かし、市子をかかわして鉄塔頂上へたどり着く二人。そこへ母胎も同じく頂上へたどりつく。

母胎と一樹、郁子が対峙するその最中突如鉄塔が崩壊を始め、市子は地面へ、一樹と郁子母胎は空へと落ちていった。

そのとき念願の母胎に辿りついた市子は、母胎にかえりみられる事もなく落ちて行くことになった。

448 : [SIREN2](#) : 2008/05/06(火) 21:54:59 ID:ud1aa8n60

夜見島金鉱採掘所

丁度同じ頃念願のトイレを遂に発見した阿部は用を足す。満足げにトイレを出、ツカサに返してもらったライターでタバコに火をつけ一服の後、

バスケットのシュート宜しく便器に吸殻を放り込む阿部。

見事にシュートが決まりガッツポーズを決めた背後でトイレが爆発を起こした。

汲み取り式のトイレであったそのトイレの底に溜まっていたメタンガスにタバコの火が引火、爆発することになったのだ。

その爆発に連鎖されるように地下道に充満していたメタンガスが連鎖的に爆発。その爆発は鉄塔の足元にまで広がっていった。

遂に爆発は鉄塔の足元を完全に破壊しつくし、鉄塔は崩壊を開始する。目の前の現実を疑う阿部なのだった。

その爆発鉄塔崩壊のため、現実世界とのリンクは崩壊、母胎の地上侵攻作戦は完全に潰れることとなり、阿部は何気に世界を救ったヒーローなのであったが、そのことは誰も知らない。

夜見島潮降浜渚

鉄塔が崩壊していく姿を呆然と眺める永井の周囲から光がなくなっていく。闇人甲式として進化を遂げた三沢が不敵に笑っていた。永井は三沢との決着をつけることを決意する。

闇人甲式として進化した三沢は無敵弾薬を誇る最強の機関銃MINIMIを装備しているので、永井は迂闊にその前に立つことはできず、背後からその身を隠し狙撃することに成功する。(不死身の闇人を異世界の武器でない現代兵器で撃破することができたのは、三沢と対峙するまでに学校及び潮降浜渚付近の闇霊を殲滅していたため、闇人は闇霊が人間の死体を殻として利用している存在のため、殻=三沢の死体を利用する闇霊が付近に存在しなければ復活することができない。ゲーム中では三沢の体力がこの戦闘中一切回復しないことでそれが表現されている。)

機関銃を乱射し遂に地に果てた三沢。やっと全て終わったことに安堵する永井の背後から市子の声がした。その市子の顔には巨大な目玉が浮き上がっていた。市子はもはや模倣体としてその存在を維持できなくなっていたのだ。

「家に帰りたい...一緒になりたい...」とつぶやき倒れる市子と、倒れ動けなくなった三沢を吸収するように浜から巨大な顔面(市子のそれを模倣したもの)の生き物が浮上してきた。まだ戦いは終わっていないことを知った永井は

三沢の残した機関銃MINIMIを携え巨大な顔面の生き物(墮彗児/おとしご)との戦いに臨むことになる。

墮彗児は屍霊の凝結したものであり、光に弱い。ここで永井は潮降浜渚にある灯台に向かいタイムカプセルから入手したヒューズを組み込み灯台の光を起動した。さらに墮彗児は移動手段が回転による突進しかないことに気づいた永井は廃棄されたタンクに激突させ、そこに残されていた重油を浴びせかけることに成功する。

光を浴び重油を浴び、怯んだ墮彗児に対し、潮降浜渚に打ち揚げられていた、漁船の発電機を起動させ水銀灯をともし、そのランプを墮彗児にぶつけることで、重油を浴びたその体を燃やし尽くすことに永井は成功した。

今度こそ本当に全て終わったことに歓喜の雄たけびを上げる永井。その叫びが夜の浜辺にこだました。

449 : [SIREN2](#) : 2008/05/06(火) 21:56:04 ID:ud1aa8n60

特異点

鉄塔の崩壊により一樹、郁子、母胎は特異点へ飛ばされていた。特異点、それは全ての事象が

起こりうる世界だった。
ゲームとしていえば全て終了条件2で終わった世界。無限の可能性の中で現世と虚無の区別のない世界だった。
その世界の空には赤い海があり、そこから母胎が顔を出していた。計画の破綻に激怒した母胎は一樹たちに襲い掛かる。
一樹たちも母胎との最後の決着をつけることになった。
一樹と郁子の協力の下でも母胎の力は強力で、一樹は弾き飛ばされてしまう。その際にポケットからかつて拾った、昔三上が埋めたメダルが零れ落ちる。そのメダルを辿って幼少の三上もこの特異点へ導かれた。さらにその三上を探して章子/加奈江も特異点へやってきた。三上を探す最中、加奈江は自身と母胎がかなりの精度でリンクしていることに気づいた。三上の肉体は母胎によって抑えられている。よってその肉体を解放するために加奈江は自傷する事によって母胎に強烈な痛手を与えることに成功した。
そのとき、一樹と郁子がここに来るまでに手に入れていた闇那其（あんなき）が輝きだし、石の刃物の様な形態になった。
その闇那其を母胎に振り下ろす郁子。すると今まで一度もさしたる痛手を受けたと見られなかった母胎がうめき声を上げ逃げ出した。
この闇那其には全てを無にしてしまう力（そして闇那其のみが残る世界を作る力）があったようだ。
そして一樹も母胎にその闇那其を叩き込んだ。強烈な断末魔を上げ息絶える母胎。決着に安堵する二人。がしかし母胎は最後の力を振り絞って再び赤い津波を呼び起こすのだった。

ENDING

三上脩 & 加奈江

赤い海の中パジャマを着た幼い三上を抱く加奈江。「おやすみ、脩。」
三上はそのまま瞳を閉じた。こうして加奈江と三上はともに赤い海（時空ののりしろ）の中静かに二人のときを過ごしていくのだった。

永井

墮彗児を倒したのもつかの間、赤い津波に飲み込まれる永井。その永井が飛ばされた世界は太陽に暗黒の影がかかり、
さも日食になったかの世界だった。浜辺には大量の闇人。この世界では闇人地上侵攻作戦が成功してしまっただけだった。
この地上には人間は永井ただ一人、人間は伝説の怪物として恐れられていた。恐慌状態になる永井。
永井の姿に恐れおののく闇人を機関銃MINIMIで次々と銃殺していく。だがしかし現実世界に戻る術はあるのだろうか...

阿部 & ツカサ

やはり赤い津波に飲み込まれてしまった阿部とツカサであったが、辿りついた先は朝日の昇る穏やかな海岸道路だった。
その朝日を見つめながら、不意に全てが終わってしまったことに気づく阿部。この世界は闇霊屍霊がはじめから存在しない世界だった。
闇霊が存在しないため、母胎は存在せず、そして彼の愛した多河柳子もはじめから存在しなかった世界なのだった。
果てしない絶望感に苛まれたただ滂沱と涙を流す阿部にツカサが寄り添った。彼女も自身が尽くしてきた飼い主の三上がいなくなってしまったのだ。そうして一匹と一人は互いに寄り添い朝日を見続けるのだった。

一樹 & 郁子

海岸で眼を覚ます一樹。朝日が昇っている。夜の世界が終わり現実に戻ってきたことを実感する一樹。
一樹と郁子が戻ってきた世界は唯一今までと同じ現実の世界だった。郁子が眼を覚ました。二人で朝日を見つめる。
穏やかな朝焼けの元満足げな一樹。その横で郁子は太陽の光を煩わしそうに睨み付けるのだった。

不死の肉体を持ち、異界の生物を殺しつくすうりえんを手にした異界ジェノサイダーとなった須田恭也は虚無の世界の夜見島に現れ、未だに生き残っていた闇霊闇人を殲滅する。その戦いに終わりはない。

- 450 : [ゲーム好き名無しさん](#) : 2008/05/06(火) 21:57:08 ID:ud1aa8n60
終わり 前回の人の文章を読み込まずに見切り発車で書いてしまったのでかぶっているところとかあったらゴメンなさい あとどこを補足したら良いかよくわかんなかったので補足した方が良いつてところがあったら教えてください
- 451 : [ゲーム好き名無しさん](#) : 2008/05/06(火) 22:07:36 ID:Z+mWvhJQ0
乙です
一樹&郁子のEDの時間の表示に関しても何かあれば...
- 452 : [ゲーム好き名無しさん](#) : 2008/05/06(火) 22:14:03 ID:ud1aa8n60
えっと
一樹&郁子 24:44:44

永井 24:32:22

阿部&ツカサ 24:45:55

です
- 460 : [ゲーム好き名無しさん](#) : 2008/05/07(水) 21:10:27 ID:seoCvCyQ0
[>>446-450](#)
リクした者ですが、乙です。
ありがとうございました。

で、
>ゲームとしていけば全て終了条件2で終わった世界。
の“終了条件”の意味を教えてくださいなのですが.....
- 461 : [ゲーム好き名無しさん](#) : 2008/05/07(水) 21:16:23 ID:iYvEONq50
[>>460](#)
終了条件はSIREN中のステージを攻略するための条件でそれが達成されるとステージがクリアとなる
終了条件には2種類あってまずそのステージがプレイ可能になると出現するのが終了条件1
他のステージで何らかの行動を起こすことでプレイできるようになるのが終了条件2

こんな感じで良いのかな わからないところとかあれば補足するんで是非
- 463 : [ゲーム好き名無しさん](#) : 2008/05/07(水) 21:38:23 ID:4VBlsTvTO
登場人物達は閉じた世界である異界に
取り込まれているので、ループして同じ時間を繰り返してしまう。(終了条件1)
しかし、それを打破するために各人が少しずつ
違う行動をとり、それらが積み重なることで新たな道が開ける。(終了条件2)
例えば、A地点からC地点へ到達が条件1とする。
このままでは世界は何も変わらないが、途中のB地点で鍵を
拾ったりすることで新たな展開がある。

はっきりいうと新シナリオを開くためのフラグ立ての作ぎよ(ry
- 464 : [ゲーム好き名無しさん](#) : 2008/05/07(水) 21:42:38 ID:seoCvCyQ0
つまり、
終了条件1でゲームを進める 主人公たちは無限ループに陥り、その隙に世界が征服される

終了条件2でゲームを進める ループ崩壊。ラスボスの元にたどり着ける
ということで良いのですか？

465 : [ゲーム好き名無しさん](#) : 2008/05/07(水) 21:56:45 ID:iYvEONq50
無限ループは初代SIRENで
SIREN2はパラレルワールドの世界だった気がする
無限にある可能性の世界の中で終了条件2を
達成した世界だけエンディングにたどり着けた
みたいな感じの